宮崎型気候風土適応住宅チェックリスト

地名地番 : _____
 申請者氏名 : _____
 設計者氏名 : _____

年 月 日

観点	区分	番号	宮崎型気候風土適応住宅の基準 (告示786号第2項)	基準の解説/留意事項	提出 (提示) 書類等	チェック	
1) 様式・形態・空間構成	内部	内部空間	1	自然通風の取り込みに配慮し、引き戸を多用した間取りであること	・各室間の建具が原則引き戸であることや、続き間とするなど、各室の連続性の確保が図られていること ・非居室または水回り部分はこれによらないことも可とする		☐
		建具	2	内部の建具は、地場製作による建具であること	・県内または隣接県内で製作されたものとする ・非居室または水回り部分はこれによらないことも可とする	・納品書等	☐
	内外境界部	屋根・軒	3	深い軒(軒の出寸法3尺(910mm)以上)を設けることし、妻側に窓がある場合には、庇(庇の出寸法1尺半(455mm)以上)を設けること	・寸法は、外壁の柱芯又は壁芯から先端まで(雨樋を除く)とする		☐
		開口部	4	夏場には換気、冬場には日差しの取入れを目的とした掃き出し窓(窓台天端の床面からの高さが300mm以下のものを含む)を設けることとし、その幅の各階の合計が次の各区分に応じ、それぞれ定める基準以上であること イ 階数が1で、延べ床面積が130㎡以下の場合 1 階部分の外壁周長の10%以上 ロ 階数が2以上、又は延べ床面積が130㎡を超える場合 1 階部分の外壁周長の15%以上	・原則、建物の南側の面で確保すること ・外壁周長は、外壁の柱芯又は壁芯での寸法とする ・開口部の幅は有効寸法とする ・すだれ等が設置しやすい配慮がされていること		☐
			5	窓の配置が対角・高低等、通風に配慮した位置であること	・高低については、地窓や高窓等により確保されていること ・異なる外壁面に高低差のある開口部を1組以上設置 ・各居室は自然通風の流れを考慮して開口部が配置されていること		☐
	外部	6	外部空間(敷地の周囲に公園、緑地又は広場等がある場合は、それらを活用することを含む)について、通風や日差しに配慮した庭や樹木の配置等が行われていること	・通風を確保しようとする居室と外部空間(庭等)の連続性が確保されていること ・日差しに配慮した樹木(落葉樹や常緑樹)の配置、塀の設置等		☐	
2) 構工法	構造部分	構造部材	7	長さ2間(3,640mm)以上の太鼓梁を2本以上用いていること	・太鼓梁が現しかどうかは問わない	・ (目視確認できない場合) 写真	☐
		小屋組・軒構法	8	野地板は杉板等の県産材とし、軒裏が野地板現し又は自然素材による仕上げであること		・ (目視確認できない場合) 写真	☐
		接合方式・加工法	9	適所に手刻み加工による伝統的な継手仕口を用いていること	・一部でも可 ・太鼓梁の両端 (一本につき2箇所以上) は必須とする	・ 写真	☐
	非構造部分 (外部)	屋根	10	屋根が瓦屋根又は茅葺屋根等の自然素材であること (軒先周りや下屋等については、軽量化のために金属屋根等とする可とする)			☐
		外壁	11	外壁が無垢板張り又は漆喰塗、シラス塗等であること	・塗壁は左官仕上げのものに限る ・下地の仕様は問わない		☐
	非構造部分 (内部)	内壁・内天井	12	居室の壁を真壁とし、仕上げが無垢板壁、漆喰塗、シラス塗等又は和紙等の自然素材によるものであること			☐
			13	居室の天井が野地板現し、板張り、竿縁天井、網代天井又は漆喰塗等の自然素材によるものであること			☐
内部床		14	床が畳又は無垢板張り(いずれも国産材に限る)であること	・非居室または水回り部分はこれによらないことも可とする		☐	
3) 材料・生産体制	地域材料の使用	15	県産木材(自然乾燥材推奨。一部に県外の国産材(古材を含む)を使用する場合も可とする)を使用した木造住宅であること		・ 木材供給業者等の証明 (参考様式)	☐	
	地域に根ざした生産・維持管理体制	16	地域の木工・職人が登用されていること	・ 技術力等確保のため、地域以外の木工・職人が含まれている場合も可とする	・ 登用されていることの証明 (参考様式)	☐	
4) 景観形成	景観の維持・形成	17	宮崎やその地域に相応しい街並みや景観、風景となるよう配慮していること	・ 屋根勾配(4寸勾配等)や外部仕上げでの材料や色彩への配慮等 ・ 格子・庇、木塀、生垣、竹垣の設置等		☐	
	緑・生態系の維持	18	宮崎やその地域の植生を活用した緑化に配慮していること	・ 数量は問わない		☐	
5) 住まい方	設備に頼らない暮らし 気象要素を制御・活用する暮らし	19	すだれ、よしずの利用や窓の開け閉め等の活用(雨戸、網戸、障子等の利用や濡れ縁、縁側の活用)により、気候風土を活用した住まい方ができること	・ すだれ、よしずの利用や、開口部は雨戸、網戸、障子等の建具を重ね使いすることによって、外部環境の取り入れや対応ができること		☐	
備考			本基準のうち、第6号、第17号、第18号については配慮事項であり、その内容を記載すること				

※特段の定めがない用語の定義や運用は、「気候風土適応住宅の解説」による。